

平成 25 年度下期 e-AAC ワークショップ「GIS 教育認定講座」

「GIS 講座」「オープンデータとオープンソース GIS」ワークショップの概要

NPO 法人 電子自治体アドバイザークラブ

(URL : <http://eaac.sakura.ne.jp/>)

第 1 部 第 1 回 セミナー

■日時: 平成26年3月11日(火)、13:30~17:00

会場: 奈良大学 総合研究棟 J201

■基調講演: 「オープンデータとオープンソースGISの展開と地域人口分析」

(奈良大学文学部地理学科教授 酒井高正氏)

【概要】

国勢調査を初めとする主要な指定統計データの公開はオープンデータの先駆けともいえるかたちで進み、GIS とも結びついて「統計 GIS」として活用されている。本講演では、こうした統計データの公開状況の系譜を概観するとともに、現行の「統計 GIS」の利用上の特色を整理する。さらに、MANDARA などの無料のオープンソース GIS を用いて、それらのデータを分析する方法を紹介することにより、一般の来聴者に、オープンデータとオープンソースソフトを使った基礎的な GIS 分析について理解してもらう。

【酒井高正氏のプロフィール】1960 年生まれ、京都大学大学院文学研究科地理学専攻修士課程修了(1986)、現在、奈良大学文学部地理学科教授／奈良大学大学院文学研究科地理学専攻兼任／地理情報システム学会代議員・教育委員長／近畿都市学会理事・事務局長／日本地理学会会員／人文地理学会会員／日本人口学会会員他

■講演2: 「自治体事例 ～統合GIS構築からのオープンデータ化にむけて～」

【概要】

(葛城市情報推進課 芦高由訓氏)

葛城市では固定資産、道路、都市計画、上下水などの個別業務 GIS が各課業務においてのみ使用されていたが、平成 24 年度に統合型 GIS を導入し、全庁的にデータ整備の上、業務において使用できるようになった。まず、統合型 GIS の導入経緯とデータやルールの整備について報告する。また、国や先進自治体の取り組みを参考に、オープンデータ公開へ向けた小さな一歩を踏み出す取り組みについて報告する。

【芦高由訓氏のプロフィール】平成 15 年 新庄町入庁 健康福祉センター 平成 16 年 10 月 保健福祉部 社会福祉課 平成 20 年 4 月 企画部 情報推進課

■講演3: 「基盤地図情報とオープンソースGISによる日常業務及び災害時の情報共有システムの構築」

(大阪 GIS 官民協議会 支援グループ 一氏昭吉氏)

【概要】

基盤地図情報は国土の位置の基準であり誰もが利用できるオープンデータであると言える。つまり一定のルールはあるものの、広く流通や加工することも可能な状態で提供され、官民の様々な測量成果を活用し集約するという構想と仕組みを持っている。本講演では、オープンデータという流れを一時的なものに終わらせないためにも、この基盤地図情報をオープンデータ作成のための位置の基準として活用することの意義と基盤地図情報とオープンソース GIS を活用することで、広域的な情報共有のためのシステムを業務レベルで構築し活用している大阪 GIS 官民協議会の道路占有協議・申請システムの構想と、その成果である調整会議システムの運用とその効果、またそれを発展させた日常業務や災害時の情報共有システムをはじめとする、社会基盤に関わる土木管理者や民間設備管理者などのための情報共有のプラットフォーム構想について紹介する。

【一氏昭吉氏のプロフィール】1949 年生まれ。元門真市職員(2012 年 3 月まで)、現在 大阪府測量設計業協会顧問・GIS 大縮尺データ官民共有化推進協議会 GIS 支援チームメンバー／GIS 学会会員／GIS 上級技術者

第2部 ワークショップ

■日時: 平成26年3月18日(火)、13:30~17:00

会場: 奈良大学 総合研究棟 J201

■ワークショップ: 「気軽に始める GIS を用いた地理空間情報の作成」

(奈良大学文学部地理学科 専任講師 藤本悠氏)

GPS の普及によって簡単に位置情報を扱えるようになったが、フィールド調査において紙地図を用いる場面は、非常に多い。紙地図を持って散歩すること自体を趣味としている人々や、初等教育の現場では、予算上の理由から気軽に GPS を一括導入できないという事情もあり、未だに紙地図をベースとした情報収集活動が行われているのが現状である。そこで、本ワークショップでは、紙地図上で収集した情報を GIS を用いてデジタルな地理空間情報を構築する方法について実習する。

本ワークショップでは、オープンソース GIS の一つである QGIS を用いて実習を行い、単に作業方法を学ぶだけではなく、一般的なオープンソース技術の特徴についても学習を行う。

実習1 「地図に記録したメモを GIS データ化してみよう」

オープンソースのGISの一つであるQGISは、無償で入手できるGISです。QGISは、オープンソースのGISとして世界的に人気のあるソフトウェアであり、バージョンアップを繰り返す度に新しい機能の追加が行われ、現在ではかなり高度なこともできるようになっています。実習1では、QGISの基本操作を学びながら、GISのデータ構造を学びます。

実習2. 「オープンデータを使ったマップづくりを体験してみよう」

近年では GIS データのオープンデータ化も重要な話題となっていますが、オープンデータは単に無償で使えるという意味ではありません。自由に使う権利と同様に守るべき義務もあります。実習2では、オープンデータに関する理解を深めると同時に、海外のオープンデータの一つである NaturalEarth を用いて QGIS における地図表現について学びます。

【藤本悠氏のプロフィール】

2004 から奈良大学大学院にて地理情報標準に関する研究を行い、2006 年に修士号を取得。その後、一年間にわたって京都大学文学研究科に研究生として所属し、2007 年から同志社大学文化情報学研究所にて理念型モデル化分析法に関する研究を行う。2010 年に博士号を取得後、日本学術振興会特別研究員(PD)およびユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)連携研究員を経て、2011 年からは同志社大学高等研究教育機構(文化情報学部)特別任用助教として研究・教育活動に従事している。2011 年からは奈良大学文学部地理学科の非常勤講師を兼務。2013 年 4 月奈良大学文学部地理学科の専任講師に着任

第1部 第2回セミナー

■日時: 平成26年3月25日(火)、13:30~17:00

会場: 奈良大学 情報処理センター I105

■講演1: 「国土地理院が無償提供する地理空間情報とその利活用ツールの紹介」

(国土交通省 国土地理院近畿地方測量部 地理空間情報管理官 星野秀和氏)

【概要】

国土地理院が無償で提供する地理空間情報のひとつである基盤地図情報の紹介を行い、基盤地図情報の入手方法及び具体的な利用例について説明をするとともに、住所情報を含む帳票情報を KML 形式のデータに変換し、国土地理院が提供する Web 地図である「地理院地図」上に展開し、位置情報を含む地理空間情報「見える化」できるツールである「地理院マップシート」(Microsoft(R) Excel のマクロ機能を利用し、住所情報を BL 情報に変換できる機能を実装した Excel ファイル)の入手方法及びその利用方法などについての説明とデモを行う。

【星野秀和氏のプロフィール】東京農業大学農学部卒業(1990)/建設省国土地理院入省(1990)/国土交通省国土地理院企画部 GIS 推進室にて、GIS 関係省庁連絡会議事務局業務等に従事(2003)/国土交通省国土地理院四国地

方測量部測量課にて公共測量業務に従事(2005)/国土交通省国土地理院地理空間情報部地図情報課にて基盤地図情報の整備業務に従事(2007)/国土交通省国土地理院企画部国際交流室にて、開発途上国の地理空間情報整備支援業務等に従事(2009)/国土交通省国土地理院地理空間情報部情報普及課にて、電子国土 Web システム普及業務等に従事(2011)/現職(2012~)

■講演2:「オープンデータと自治体GIS」

(立命館大学大学院 公務研究科 青木和人氏)

【概要】

2013年6月14日に閣議決定された政府の「世界最先端IT国家創造宣言」では、今後の目指すべき社会・姿を実現するための取組として、オープンデータの活用推進が筆頭にあげられている

この国の方針に先行して、福井県鯖江市等のオープンデータ先進自治体では、オープンデータが実際に公開され、その活用が進められつつある。その中で、北海道室蘭市や静岡県では、自治体GISにおいて整備してきた地理空間情報をオープンデータとして公開する事例が始まりつつある。

そこで、本プログラムでは、自治体GISで整備・更新している地理空間情報のオープンデータ事例と他の地方自治体が地理空間情報をはじめとしたオープンデータを進めていくための課題について考察する。

【青木和人氏のプロフィール】立命館大学大学院 公務研究科 講師、立命館大学 歴史都市防災研究センター 客員研究員、地理情報システム学会 代議員、教育委員会 副委員長、自治体分科会 会長
国土交通省国土政策局「地理空間情報高度活用促進プログラム検討委員会」委員、立命館大学大学院 文学研究科人文学専攻 博士課程後期課程 修了。博士(文学)専門領域:自治体GIS、地理情報科学、地理学

■講演3:「ビッグデータ、オープンデータ活用に対する富士通の取り組みと先進事例ご紹介」

(富士通株式会社 次世代公共営業本部マネージャー 宮 典男氏)

【概要】

ビッグデータ、オープンデータの活用に対する富士通の取り組みを、最新の技術動向や公共系のお客様を中心とした先進的な事例を交えてご紹介いたします。

【宮 典男氏のプロフィール】1981 東京理科大学工学部卒 同年 富士通株式会社入社・生産管理、営放情報システム開発・自治体福祉パッケージシステム開発・導入責任者・千葉市、横浜市等システム運用保守責任者・電子調達、土木積算パッケージ開発責任者 2009 青森県任期付職員(IT専門監)2013 青森県退職
同年 富士通次世代公共営業本部マネージャー(現在に至る)

【主催】: ・奈良大学文学部地理学教室
・特定非営利活動法人 電子自治体アドバイザークラブ (e-AAC)

【第1部共催】: ・奈良県電子自治体推進協議会

【後援】: ・総務省(近畿総合通信局) ・経産省(近畿経済産業局) ・奈良県市長会 ・奈良県町村会
・公益財団法人 奈良県地域産業振興センター ・地理情報システム(GIS)学会 ・奈良地理学会
・奈良県測量設計業協会 ・奈良県土地家屋調査士会 ・奈良GIS研究所

【協賛団体】: ・(財)日本地図センター ・西日本電信電話株式会社奈良支店 ・富士通株式会社
・シャープ株式会社 ・近鉄ケーブルネットワーク株式会社(KCN)
・特定非営利活動法人サイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES(略称:NPO 法人 CCC-TIES)